



【ジャケットイラスト】

色分け

灰色のハイライトは状況説明

【台本】

≡≡トラック①

愛、彼氏のアパートに向かっている

(愛)

私の名前は柚木愛。

今年の春から、高校の教師をしています。

今日は久しぶりの休み。一日彼の家でゆっくりする……

ゆっくりするはずだったのに……

「ただいま。ごめんなさい、急に呼び出されちゃって」

「あれ？ 誰か来てるの？」

「ちゅぱっ♡ んんっ……むちゅ♡」

「……え？」

「あら、帰ってきたんだ。んんっ♡ あん♡」

「ちょっと！ なにやってるんですか!?!」

「ちゅぱ♡ 何って、見たらわかるでしょ？」

「セックス♡」

／／／タイトルコール

爆乳彼女と

(愛)
(陽子)

隣の爆乳お姉さんの

(愛)

彼氏を賭けた奪い合いレズバトル

(陽子)

彼氏を賭けた奪い合いレズバトル

愛と陽子がベッドの上に並んで座る

愛

「ちょっと電話に出ただけなのに……

どうしてこうなったの？ 説明してよ！」

陽子

「この娘が彼女なんだ？ お堅いかたね〜？」

愛

「人の彼氏に手を出して、よく堂々としていられますね」

陽子

「今日もお料理を作りすぎちゃったから、届けにきたの」

陽子

「そしたら、たまたま流れで……♡ それだけよ」

愛

「……っ！ 今日も!? 何回もやってないですよね？」

陽子

「さあ？ どうかしらね？」

愛

「ねえ、君は優しいから、断れなかったんだよね。

私の方が好きだよね？」

陽子

「ねえ……わたしに乗り換えていいことしない？♡

わたしとやる方がきつと楽しいわよ♡」

愛

「私とするほうがいいよね？　そうでしょ？」

陽子

「ふふ……♡　あなた毎回毎回、

大きな喘ぎ声上げてたけど、

自分だけ楽しんでることに気が付いてないの？」

愛

「……っ！　ひ、ひとのセックス……

盗み聞きしてたんですか？」

陽子

「あら、ご自分の喘ぎ声の大きさ、

わかってらっしゃらない？」

愛

「……気持ちいいものは……仕方ないじゃない……」

陽子

「ねえ彼氏君。

わたしの方がもっと気持ちよくできるわよ」

陽子、服をめくりおっぱいを見せつける

陽子

「ほくら♡　大きいおっぱい好きでしょ？」

愛

「ちょっと！　話し合いの途中で……！」

君も見ないで！」

陽子

「ほらね？　わたしの方を見てる」

愛

「くっ……！　ほら見て……♡

私のおっぱいの方が好きだよね」

陽子

愛、負けじとおっぱいを見せつける

「わたしのおっぱいの方が大きくて、マシユマロみたいに柔らかいよ♡」

愛

「私の方が大きくて、張りがあって気持ちいいよ♡

ね？ お願い……私を選んで♡」

陽子

「こっちにおいで♡ Kカップの爆乳よ」

おちんぽ包み込んであげるから♡」

愛

「私もKカップよ！

またいつもみたいに抜いてあげるよ？」

陽子、男の手を取り胸に当てさせる

「ほら♡ 柔らかいでしょ？ 揉んでいいのよ。

ンンっ♡」

愛、男の手を取り胸に当てさせる

「あ、ずるい！ 私の方が絶対気持ちいいから！

揉んでみて♡ あああっ♡」

「ねえ、どっちがいい？♡」

「どっち？ 私だよね♡」

「わたしでしょ？ 正直に言っているのよ♡

このおっぱいで、パイズリされたいでしょ？」

愛 「パ、パイズリフェラ……またやってあげるから♡」

陽子 「わたしの方がうまいわよ♡ そう思うでしょ？」

愛 「私とセックスしたいよね？ はっきり言って！」

陽子 「わたしと濃厚なセックスしましょうよ♡ ねえ、彼氏君」

愛 「私としよ……♡ ね？ おねがい♡」

陽子 「わたしがいいんでしょう？ はああああん♡

おっぱい揉むのうまいね♡」

愛子 「んんん♡ 気持ちいい……♡ ど、どう？

私の方がいいよね♡」

陽子 「ふうふう♡ んん♡」

愛 「はっ♡ んん♡ はあはあ……♡

でも、答えは言ってくれないんだね……」

愛・陽子、睨み合い

陽子 「仕方ないからさ。わたしたちで決めましょうよ」

愛 「決めるって……どうやってですか？」

陽子 「決まってるでしょ？ からだで♡」

愛 「っ！ 人前で服を脱いで……何のつもり？」

陽子

「あら？ 身体からだに自身が無いの？」

愛

「何を言ってるのかわかりません」

陽子

「女同士で決めるっていったら、これしかないでしょ？♡」

陽子、指を愛の股間に這わせる

愛

「んんっ♡ お股…：…擦こすらないで♡」

陽子

「ふふ♡ ねえ、逝かせ合いで勝負しましょうよ。」

負けた方が彼から手を引く…：…それでどう？」

愛

「そんな勝手な…：…」

陽子

「あら？ 彼氏君は結構乗り気みたいだけど」

愛

「そ、そうなの…：…？ わかった。君が納得するなら…：…」

愛、パンツ一枚になる

愛

「信じててね。」

私の愛の方が強いってところ、見せてあげる」

陽子、パンツ一枚になる

陽子

「ねえ彼氏君。今からこの邪魔な女、追い払うから、

ちょっと待っててね♡」

愛

「提案があります」

陽子

「あら、何かしら？」

愛

「2回ギブアップしたら負けでどうですか？

陽子

もちろん、逝かせ合いで」

「ふふ♡ 意外と面白い提案するじゃない？

どうしたの？」

愛

「あなたみたいな人は、徹底的に心を折らないと、

またやりますから」

陽子

「ふくん。いいわよ。後悔させてあげる♡」

愛

「人の男に手を出して、無事で済むと思わないでください」

陽子

「ふふ♡ 男の奪い合いなんて、よくあることですよ？

からだ身体で勝ち取ってみなさいよ」

愛

「いいんですね？ 遠慮しませんよ？」

陽子

「立ち上がれないくらい逝かせてあげる♡」

愛

愛・陽子、ベッドで膝立になって、向かい合う

愛

「……………ふう……………ふう……………」

陽子

「……………ふう……………ふう……………来なさいよ」

愛

愛・陽子、激しいキスを始める

愛

「んちゅうううう♡ んちゅ！ んじゅう！ ぐちゅ

くちゅ！ ちゅぱっ！ ぷはああ！ むちゅううう！」

陽子

「はんむっっ♡んはあっ！んじゅるるるるる！」

むちゅうううう♡ぶはっ♡んじゅうううう！

「ぷはああっ！ぷはあっ！口ほどにもないですね」

愛

「ぷはっ！はあはあ……あら？キスはうまいのね♡」

陽子

「んじゅううううう！じゅるううううううう！」

愛

「むちゅううううう！ぶちゅうううううう！」

陽子

「んはっ♡はあ♡逝ってもいいんですよ？」

愛

「ぷはあ♡甘く見ないでくれるかしら。んんんん！」

陽子

「じゅるうううううううううううううううううう！」♡

愛

「んんんん！！ぶへえ♡はあはあ♡」

陽子

「効きいてるみたいですね？んちゅ♡むちゅ♡

愛

「んちゅううううう♡ぷはああ♡まあまあかな？」

陽子

「強がりですね。はむうっ♡ちゅぱっ！んちゅぱっ」

愛

「はむうっ♡むちゅううううう♡

陽子

「一つお礼を言っておくわ♡」

陽子、愛の乳首と自分の乳首を擦り合わせる

「んちゅ！ぷはああっ……んお、おおっ！！」

愛

「密着戦……仕掛けてくれてありがとう♡うんっ！」

陽子

愛 「あああ♡ あああ♡ 乳首が擦れて……ッ！ ああんっ」

陽子 「おっぱいが自慢なんですよ？」

乳首……♡ 擦り合すいっこしようよ」

愛 「あああ♡ 負けない……んっ！ おおっ!!」

陽子 「はあん♡ あああ♡ 乳首、弱いのか？ ねえほら♡」

愛、快感をごまかすようにキスを継続

愛 「ああああああん♡ むちゅ！ んじゅううううう♡」

陽子 「んんん♡ ぷはああっ♡ ほら、焦ってる焦ってる」

愛 「ん、おおっ!! ああああああー!」

陽子 「乳首相撲ちくびずもう♡ ふふ……のこったのこった♡」

愛 「んんっ！ おほおおおっ！ はあああ……はっ♡

んはあああっ！ んああああ」

陽子 「さあ、負けちゃいなさい？ 潮吹しおふいちゃいなさいよ」

愛 「こんな……おっぱいだけで……お、お、お!!♡」

陽子 「ほら、ギブアップして♡」

愛 「いやだあ……」

陽子 「もっと強い刺激がイイの？ うっふん♡ んんっ♡」

陽子、より激しく乳首を擦り合わせる

愛

「、おおおおおおおおおおおおおッ!!」

陽子

「骨抜きになるまで♡ 擦り合わせてあげるわ♡」

愛

「乳首だけで……こんなに感じるなんてえ! んおおっ!」

陽子

「ふふ♡ やだあ、顔真っ赤にして♡」

もうキスしてくれないのかしら?」

愛、キスを継続

愛

「はあはあはあ……んちゅううううううう♡」

陽子

「むちゅううう♡ ぶちゅううううう♡ ふはああっ!

ワンパターン女……ん、おんなおおおッ!!」

愛

「んんんんんんんんんんツ!」

愛、陽子のパンツを引っ張り上げる

陽子

「ちよ、ちよっと! パンツがっ!

おまんこに食い込んで♡ ひっぱるなあ!」

愛

「はあはあ! うるさい! むちゅううう♡ じゅぱっ♡

んちゅうううう♡ ふはああっ♡」

陽子、愛のパンツを引っ張り上げる

陽子

「ちゅぱっ♡ あああ！♡ ふはああっ♡

布ぬのが……入っちゃうっ♡ ちゅぱっ！ ふはあっ！

もう！この下着！ いくらしたと思ってるのよ！！

このおおっ！ おかえしいい！」

「あああっ！！ はあ♡ はあはあ♡ 食い込むうう！」

「千切れるまで食い込ませてあげるわよ！ はあはあ♡

こんなやすもの！ ああああああああ！♡」

「ブランドものだもん！ はあはあ♡ はうううう♡

そっちの派手なパンツ……ちぎってあげます……

あああああああ♡」

「あああ！ あああ！ クリトリスに当たってる！

はなせえええ！」

「あなたも！ 同じことやってるのよお！」

「うおおっ！！ うぐっ！ んあああああ！ 逝け！」

「逝って！ ください！ こんのおおおおっ！」

「うんお、おおおおおーっ！！」

「うお、おほおおおおーっ！！」

愛・陽子、同時にパンツが千切れて、ベッドに倒れる

愛 「はあはあはあはあ……♡ 信じられない……」

陽子 「はあはあ……♡ この野蛮人……」
やばんじん

愛 「どっちがですか、変態……」

陽子 「ふふ♡ でも……ここからは全裸での女の勝負よ。

こざいくな
小細工無し」

愛 「負けませんよ」

陽子 「あらそう。でも……弱点はもうわかってるわよ？」

陽子、愛の両乳首を指で挟む

愛 「はうううっ！」

陽子 「乳首♡ 弱すぎよ」

愛 「はああああああああああっツ!!」

陽子、倒れ込んだ愛に馬乗りになる

陽子 「はい、マウントとった♡ あは♡ こんな責め……

愛 受けたことあるかしら？」

愛 「や、やめ……ッ!! ん、おおおおおおおおお!!

愛 おおおおおおおお!! ぶおっ!! おほっ!

愛 こおおおおおおおっ……ッ!!」

陽子

「おっぱいブルブル〜あはは♡

見て彼氏君！ みつともない声……

君の彼女壊れちゃうかも♡」

愛

「みないでえ……みないでえええええ!!

ん、おおッ!! ん、おおッ!! ん、おおッ!! ん、おおッ!!

陽子

「ほくら、逝っちゃえ♡ 雑魚乳首ちゃん♡ ほらほら♡

愛

「ぐおおおッ!! おおおッ! 逝きませんからあッ!!

んほおおおおッ!」

陽子

「そうです、かッ! ふふ……乳首……押し潰す……」

愛、陽子の乳首を引っ張りまわす

愛

「はうっ……♡!! おほおおおおおおおおおッ♡

おおおッ……おおおッ……お……か……え……しいイ!!

陽子

「あはあああッ!! オオッ!!♡ ンほおッ!

ひっばる……なあ……! おほおおおおおッ!

ひっばるなあああッ!!♡ ンおおおおおおおお!

愛・陽子、お互いが乳首を責め合っている状況

愛

「あひいっ!! あああ♡ ギブしてください!」

陽子

「そっちが降参する立場でしょ! ンおおおッ♡」

愛 「乳首!! へし折りますよ! んああああ♡」

陽子 「こっちの……セリフ♡ んああああああ♡♡

まっつてええええ!!」

愛 「はああはあ♡ 待ちませんから!

引っ張り倒してやるううううーッ!」

陽子 「はあああ!♡ 刺激が♡ ぷううううう!!」

愛 「落ちてっ♡ はああああ♡ あああん♡」

陽子 「ああああああーッ! んええええええ!

愛 「はああ! 逆転です……」

陽子 「あああ♡ あああ……♡ んぐっ♡」

愛 「君も見てて……私がこの人を……倒すところを!

愛、陽子に覆いかぶさり手マンを始める

陽子 「ぶおっ!! おほっ! ぼほおっ!! ん、おほっ!

ん、おほっ! んんん、おほおおっ!」

愛 「この手マンは! あなたがギブするまで!

やめませんか! 潰します……ッ!」

陽子 「ああッ♡ あああッ♡ おおあッ♡

んお、おおおおーッ!」

愛

「逝ってえええええッ！ 逝ってよお！ 彼は！

私のものなんだからああああッ！！」

陽子、乳首を引っ張って反撃する

陽子

「ん、んっ♡ はあはあはあ♡ ん、おおおおッ！！

わだじのものよ、おおおおおおッ！！」

愛

「ぷふうううッ！ 乳首ばかりいいいい！！

ん、おおおおおおッーッーッ！！」

陽子

「おりなさいよ！ はあはあ……重いよ！」

愛

「重く……ありませんからあ！ んおッ！ 早く逝って！」

陽子

「逝くのは、そっちよお！ ぼほおッ！！ ん、おほっ！」

愛

「ほら♡ 意識飛ぶんじゃないですか……？」

陽子

「調子に乗らないでよ……へたくそお……♡」

愛

「はあはあ♡ その割には……びちゃびちゃですよ」

陽子

「おっ！ ほおっ！！ おッ……！！ んおおおおッ！！

愛

「ギブでしょ！ はやく！ んあああッ！

ぎぶ………してください！」

陽子

「はあはあはあはあはあ……！！」

愛

（このまま……おしきる………！！）

愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛

「んああああああああああああああああああああッーッー!!」

「密着戦♡ また挑んでくれてありがとう♡」

「おっ! おッ……!! おお……ッ! おッ! おッ
やめでええええ! いぐ! いぐ!」

「やめてほしい? ギブってことかしら?」

「それはいやああああ! ぜったい、いやあ!!
おっ! おオオオオオッ! おッ! おッ!!」

「おっ! おッ……!! おお……ッ! おッ! おッ
やめでええええ! いぐ! いぐ!」

陽子、背後から愛へ一方的な手マンを開始する

「おっ! おッ……!! おお……ッ! おッ! おッ
やめでええええ! いぐ! いぐ!」

「彼氏君見える? 今から君の彼女……潮吹しおふきするから♡
おまんこよく見ててね♡」

「さて♡ 後ろから失礼しま〜す♡」

「んんんん♡ はあはあ♡ あああ♡」

陽子、愛の後ろから抱き着き、ひっくり返す。

「お尻の穴、いい感度じゃない♡ 身体からだしびれちゃった?」

「おっ! おッ……ッ! あああ♡」

陽子、愛のお尻から指を抜き出す。

（なに……なにされたの……?）

「おっ! おッ……!! おおおお……ッ」

愛

「オオオオツツツ♡ オオオオツツツ♡

もう……だめええええ!! んお、おおおッ!

「逝け逝け♡ ほら♡ 思いっきり出しちゃってよ♡」

「ごめん! ごめんね! 目を……閉じてて……ッ!

く、くるううううッ!!

、オオ、オオツツツ♡ 、オ、オオツ、オツツ♡」

「ん、オおおおおおッーーーッ♡!! (絶頂)」

「あははは♡ ごめんね彼氏君。

そこまでお潮しおが届くと思わなかった!」

「、オオ、オオッ! 、オオ、オオッ!」

「わたしのテクの方が上って、わかってくれたかしら?」

「まだ……ぎぶ、してないです……」

「あら? 大噴射だいふんしゃしておいて、よく口が聞けるわね♡」

「まだ……ぎぶあっぷって、言ってもせんから!」

陽子、背後から手マンを再開する

「知ってるわよ。これから言わせるの♡」

「んんっ♡ んへええええええええええッ♡

、オオ、オオおおおおッ! 、オオ、オオおおおッ!」

陽子

「うふふ♡ ギブアップするまで手マンを続けるわよ
あなたもそうするつもりだったんでしょ？」

愛

「あああ！ 逝ったばかりなのにいいい！」

陽子

「男の奪い合いで、甘えたこと言わないでよね♡」

愛

「あああッ♡ あああッ♡ おまんこがああッ！

おかしくなるうううーッ！！」

陽子

「ほら、もう一発♡ 逝っちゃえ♡」

愛

「えへえええ♡ ほッ……ッ！！ おッ……ッ！！

まって……ごおッ！！」

陽子

「ギブする？♡」

愛

「ぜったい……いやあッ！ おッ……ッ！！

おッ……ッ！！ お、おッ……ッ！！」

陽子

「これでも？」

愛

「んええええええええええええええええッ！！ お、おッ、お、おッ」

陽子

「両乳首潰しながらの、足マンよ♡

あなたを逝かせる技なんて、いくらでもあるわ♡」

愛、股間を突き上げて耐えている

「お、おッ、お、お……ッ！」

陽子

「あらあら、おまんこ突きあがってきた。

彼氏君に丸見えよ♡」

愛

「あああああ！ あああああ！ ぐうううっ！

また！ きちやううっ！ いぐっッ！ イグうっッ！

陽子

「ふふ……逝っちゃえ、ざっこ♡」

愛、陽子と愛にかかるような激しい潮吹き

愛

「ぶッ！ んおおお、おおおおーッ！（絶頂）」

陽子

「はあはあ……ちよっと♡ 顔にかかったじゃない。

もう♡ 激しいんだから♡」

愛

「あぐっ……ぶ……んぶ……ッ！」

陽子

「あら、墮ちちゃった？ ギブってことでいい？」

愛、仰向けになってぐったりしている

愛

「んはああっ……んはああっ…… ギブアップだけは……

ぜったいしませんから！」

陽子、股間を愛の顔に当てて座る

陽子

「はあ……しっこい女ね。

そうであっ♡ ギブアップって言えないお口なら、

私のおまんこでもお掃除しなよ」

愛

「んんんんッ！ ぶへえええええッ！」

陽子

「マングリ固^{がた}め♡ この体勢でまだ勝てると思うの？」

愛

「んんんっーっーッ！ ぶうううーっーッ！」

陽子、愛の下半身を持ち上げクンニを始める。

陽子

「早めにギブした方が、良いと思うわよ♡ はむう♡

あむう♡♡ ちゅう♡♡

「ぶう♡♡、オオオ♡♡、オオオ♡♡」

(なにこれ……クンニ……されてる……!!)

陽子

「ちゅ♡♡ ちゅ♡♡ おまんこ、愛液あいえきで溢あふれてる♡

いつまでもつのかな？」

愛

「……………ぶおおおおッ！、オオオオオオオオ♡♡」

陽子、愛の顔から少し股間を離す

陽子

「ねえ、ぎぶ？ おまんこプレスから解放してあげてるうちに、降参した方がいいわよ」

愛

「おええッ！ おええッ！ けほっ!! いやだああ！」

あきらめませんっ……………！」

陽子

「じゃあ継続♡♡」

愛

「ぶぐうううううううッ！ んおぶうううううッ！」

陽子 「んじゅるるるるるうううう!! むちゅううう♡」

愛 「♡オオオツ♡ ♪オオオツ♡ ♪オオオオオオオツ♡」

愛 (おまんこが吸われて……愛液あいえきとまらない……!)

陽子 「ぷはあああッ! ギブしたくなったら、

おまんこ舐めてね? 少しだけしゃべらせてあげる」

愛 「ぶぐううううう! ぶぐううううううう!」

陽子 「ほらほら♡ ちょっと考えればわかるでしょ?

逆転できる体勢じゃないって……♡」

愛 「んぼおおおおおおおッ……ッ! (絶頂)」

陽子 「は〜い、また逝った♡ すっごく無様ぶざまよ?♡

噴水みたい」

愛 「…おおおおおッ……おおお……ッ!」

愛 (もう、だ……めえ……っ……)

陽子 「まだ頑張るの? こんなみっともない恰好かっこうで

「んぶうううっ! んぶううううっ! んぐっ!」

愛 (ぐ……ぐるじい……ッ!)

陽子 「なあに? お尻叩いて……お話したいの?」

愛 「ぶぐうううう! むぐうっ! むぐっ! ぶうううう!」

陽子

「言ったわよね？ ギブアップしたいなら、

おまんこ舐めろって……♡」

愛

「ぶええっ……んぶ……ぐぶ……ッ！」

愛

(くるしいッ……！ くやじいッ……！)

陽子

「いいのよ。このままずっと逝かせてあげても♡」

愛

愛、泣きながら陽子の股間を舐める

愛

「んおおッ!! ぶっ！ むちゅ！ レロッ！ ちゅぱっ

むじゅっ……むじゅ」

陽子

「はーい、よくできましたあ♡

おまんこ、少し浮かせてあげたわよ」

愛

「ぷはあああ！ はあああ！ はあああ！ はああっ！」

陽子

「で、何か言うことあるの？」

わたしのおまんこに向かって、はっきり言いなよ」

愛、ここから泣きながら話続ける

愛

「ぶええっ……ッ！ んえええっ！ ひぐっ！ うえっ！」

陽子

「降参できないなら、おまんこプレス……続けるけど？」

もちろんクンニも♡ むちゅうううう♡

んじゅるうううううううううう♡♡ むちゅううう♡」

愛

「くううっ……ッ！ んあああッ♡ もう、ダメエ！
ギブッ！ ギブアップしますうッ!! まげまじだあッ！」

陽子、愛を解放し立ち上がる

陽子

「はぁ〜い♡ 彼氏君。聞いた？ ギブアップだって」

愛

「んおおッ♡ オオっ♡ んあああ……………」

陽子

「こんな女、わたしのクンニで十分逝くんだから、

君のおちんぼ、わたしがもらったほうがいいわよね♡」

愛

「なに……………を……………!? はあはあはあ……………」

陽子

「ご褒美♡ ちょうだい♡」

愛

「や、やめてえええッ!!」

陽子、男とセックスを始める

陽子

「んあああああああああんッ♡♡

すごいっ♡ 大きいのが♡ 奥まで……………ッ♡♡」

愛

「やめてえ……………ッ！ はなれてええ……………ッ！」

陽子

「あんッ♡ アッ♡ アッ♡ どう？ 君の彼女より、

締まりがいいでしょ♡!?」

愛

「やめてください！ まだ鬨いは、終わってないから！」

陽子

「あなたがぶっ倒れてるからでしょ？」

ンおおおっ♡ ああああん♡ うんっ♡ うんっ♡

愛

「このお……おちんぽ！ ぬいてえええッ！ バカ女！」

陽子

「くっ……じゃまばかり……んああああッ♡」

愛、陽子を掴んで引っ張り上げる

愛

「んんんんんんッ！ 私のおちんぽなんだからあ！」

陽子

「わたしのものになるのよ!! まけいぬのくせに！」

愛

「まだ、一回ギブアップしただけです！」

陽子

「すぐにもう一回言わせてあげる。」

彼氏君、少し待ってね」

愛

「ごめんね……もう絶対ギブアップしないから。」

私を待ってて」

陽子

「わかってるでしょうね？ 次降参したら、

わたしの勝ちよ」

愛

「もう死んでも降参しません。」

あなたを潰すためなら、手段を選びませんから」

陽子

「さっきもそんなこと言って、

わたしのおまんこに降参したくせに♡」

愛

陽子

愛

「今度は私が、みっちり……指導してあげます」

「たのしみね〜せんせい♡」

「もう負けないからあ！」

〳〳トラック①終

陽子 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子

「はあはあ！ 耳……っ♡ ずるい……♡」

「はあはあ♡ んじゅっ♡ ずるくない……」

「じぶんだけえ……♡ ツ！ やめっ……」

ん、お、お、お、お、おっ！！」

「……逝きましたか？」

「あぁっ♡ あぁっ♡ 逝ってない！」

「逝ったくせに！」

「逝ってないわよ！」

「じゃあ、言い訳できないくらい……」

逝かせてあげます」

「むふうふうふうっ！！ んふうふうっ！」

「はあはあ！ ふっ♡ さっき、あなたのおまんこに、

呼吸を止められてわかりました」

「んんんッ！！ ぶぐううっ！！ ふうううっ！！ ふうう！」

「酸欠になると、結構感じちゃうんですね……♡」

「ぶええっ！ んふうううっ！」

(い、いきが……っ)

愛、大きな胸で陽子の顔を覆う。

愛

「私のおっぱいのお味はいかがですか♡?」

陽子

「んゝおおおおおおおおおッ!! ぶううううう!!」

ぶううううううーッ♡」

愛

「そして…… あああんっ♡ ああああっ♡

おまんこのっ♡ こすりあいです……♡ 墮^おちてっ!

うんっ! ください! んんっ♡」

陽子

「んんんッ♡ ぶっ!! ぶっ!! んぶ!!

んんんッ♡ おおおおッーッーッ!」

愛

「はあはあ♡ 逝ってよ♡ ねえっ♡ おおっ♡」

陽子

「ぶおっ♡ おおおおおおッ♡ ぶっ!! んぶっ!」

陽子

(やばい……これ……ほんとに……意識が飛びそう)

愛

「はあはあはあはあっ♡ ギブアップしますか!?!」

陽子、酸欠状態で股間を責められる

陽子

「ぶはあああああっ♡ はああああっ♡

ぜったいしないから!! んぶううううううっ!!

ぶううううううッ!! ぶへえええええ♡」

陽子

(ぐるじいじいじいじいじいじいッーッ!)

愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 陽子 愛 陽子 愛 陽子 陽子 愛

「うんっ♡ うんっー♡ はああはああ♡
ぜったい！ ギブアップさせますから！」

「ンおおおおおっ♡ ぶううっ！ ぶうッ！」

（やばい……ッ！ やばいつッ！ おまんこがっ！）

「もう我慢できないでしょ！ ねえっ！
潮吹しおきしてください!!」

「ぶっ！♡ んんんんッ♡」

「君もみてて！ 私のおまんこが……
この人に勝つところ！」

「ぶふうううっ♡ ぶうっつふううう♡」

（もう……だめええええええええええッ♡）

「逝しってええええええっ♡ んんっ♡ んんっ♡」

「ん、おおおおおおおおッーッ♡（絶頂）」

「はああはああはああ♡ おおっ！♡ はああ♡
今度こそ逝しおきましたね？ 見事な潮吹しおきですよ」

「はああ♡ おおっ♡ はああ……だからなに？
まだ……ギブアップしてないから」

「私が有利な態勢なのは……わかりますよね！」

陽子

「んおおおおおおおおおッ♡ ああっ♡ ああっ♡」

愛

「じゅるううううううううっ！ ちゅぱっ♡」

おっぱいのパイズリ……受けたことないはずよ」

陽子、おっぱいをおっぱいで挟まれながら乳首を吸われる

陽子

「おっ♡おっ♡♡ おおっっ！ おほっッ!! んお！

ちくびがああ！ すわれてっ……うっおほおおっ！

おおっほおおおおおおおっ♡」

愛

「いしき……ぶっとばして……あげます……」

ちゅぱっ！ んじゅっ！ むちゅううううううっ♡

ちゅぱっ！ はあはあはあ♡ ギブしないんですか!？」

陽子

「ノーっ！ ノーッッ♡ こんな程度でえ♡ んっ!!

おへえええええっえっ!!」

愛

「はあはあ♡ むちゅううううううううっ♡♡」

陽子

「からだがあ……っ！ のけぞる……っ♡ やばい……♡」

愛

「ちゅぱっ♡ もうむりでしょおおお！」

陽子

「おっ♡おほっ♡ んおおおおっ♡ おええええええ♡」

愛

「ちゅぱっ！ んじゅっ！

ぎぶしてください！ はやく！ むちゅうううう♡」

陽子

「えへええ……♡ あへえええ……♡ ごほっ♡

愛

おえっ♡ おおおおおおおっ♡」

陽子

「ちゅぱっ♡ もうむりでしょおおお！」

愛

「ああ♡ ああああっ♡ おかえしよおおお!!」

陽子

「んっ!! いやあああ♡ また……おっぱいい！」

陽子、愛の乳首を指でいじる

陽子

「ちくび……すりつぶす……!♡ ん、おおおおお!♡」

愛

「おかえしの……おかえしです……ッ! ふあああっ!」

陽子

「お、おおおおっ! おほっ! おっ! んおおお♡」

愛

「あああっ♡ おおおおおっ! んおっ♡ おぼっ♡」

陽子

「これが……きもちいいんでしょおおお!!」

愛

「ぷっ♡ ふふうふうふううっ……♡」

陽子

「はああ♡ はああ♡ ハア♡ 逝ったかしら?

愛

震えてるわよ? うぎいいいっ♡」

陽子

「ハアハアハア♡ あなたのおっぱいなんか!

愛

ぐちゃぐちゃにしてやるううううう!」

陽子

「や、やめっ♡ うぎいいっ! ちぎれるうううう!!」

愛

「んんんんんんんんんんんんんん!!」

陽子

愛

陽子

愛

陽子

愛

陽子

愛

陽子

愛

陽子

「おとおおっ……」

「ギブアップ!?」

「いやよおとおおっ♡」

「ギブアップでしょ!?」

「絶対しない!!」

「はぁはぁ……なら、これで……んんっ♡」

「どうですかあ!?」

「んんんんんんっ!!」

愛、陽子の顔に股間を当てて座る。

「自分の技でやられて、どんな気持ちですか!?」

「おまんこで口を塞ふさがれるの、死にたくなるでしょ!?」

「ぶううううううう!! ぶうう!! んぶっ!!」

「はぁはぁ! はぁはぁ! あなたと同じです。」

「降参したくなったら、おまんこ舐めてください。」

「それまで……」

「ぶうううっ! げぶ!! ぐぶ! んごおっ! おおっ!

「んんんんおとおおおおおおおっ!」

愛 「んじゅっ♡ むちゅッ♡ じゅぱっ♡ おまんこ
いじり続けます♡ んじゅうううううう♡」
陽子 「ぶぶおおおおっ♡ ぶぶおおおおっ♡ ぶおっ♡
ぶううううううううううううううううーッ♡♡(絶頂)」
愛 「ぷへっ！ ぷはあっ！ はあ！ また逝った！
はあはあ！ また逝きましたね！ ほら！
おまんこ舐めるまで……ギブアップもできませんよ！」
陽子 「ぶううううう♡ ぼおお……ぶお……♡」
愛 「はあ♡ はあ♡ ちゅぱっ♡ むちゅ♡ はあはあ
一生、私のおまんこの下で！ 生きてくつもりですか!？」
陽子 「ぶええええええええ！ ぶおおおっ！」
愛 「ぎぶしてええええええええええ！」
陽子 「ぶおおお……っ！ ごおおおおっ！」
陽子 (こんなおんなに……まけるくらいなら……
なんでもしてやるう……!)

愛、陽子のおしっこが顔にかかって怯む

「ぶぐうううううっ！ あああああんっ！
やめえっ！ ぷへえええっ！ ちよつと！ おしっこ！

ぷへえええええっ！ やめなさいよおお！ くうっ！
んああああああっー！

陽子、愛の顔に股間を押し付けながらクンニを開始

「ぜええっ！ ぜえっ!! ぜえっ！ ぜえっ！ おえっ！
かえしたわよ……けいせい……ぎゃくてんよ……

んじゆるるうううううううううううう♡ ぶちゅ♡
んじゅうつ♡ むちゅうううううううう♡」

「ん、おおお……っ！ ああっ！ あああああっ！

ああああああああああ♡ いっくうううう♡」
「ぶうううううう！ っがああああ♡ くびが……っ！」

愛、陽子の顔を股で挟んでクンニし返す

「ハアハアハアハア♡ 好き勝手は……させません……
シックスサインで……潰しきる……っ！」

「負けれないのよオオオ……!! おおおっ!?

ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡ むちゅううううう♡
「んじゅうううう♡ ぬちゅうううう♡ むちゅ♡

んちゅうううううううううううう♡ ぜったい……
ゆずらないからああああああ！」

陽子

「おとおお……っ！ ンおとおとおおっ！ があっ！」

愛

「んううっ♡ があっ♡ はあはあ♡ ンおぼおおっ♡」

陽子

「墮ちろおとおおおっ……ッ！ むちゅ♡ んちゅ♡」

愛

「ぼほおっ……！ ンおおおおッ……!!」

陽子

「しっしん……したかしらあああっ!？」

愛

「ああ……ッ……お……おっ……ッ♡」

陽子

「ハアア！ ハアア！ はあっ！ わたしの……」

愛

「あああっ♡ ああああっ♡ ふはああああっ♡

卑怯ひきょうなんて……いいませんよね……」

さきにおしっこかけたの、そっちですから、ね!!」

陽子、愛のおしっこを顔にかけられ怯む

陽子

「ぐぞおとおおおっ！ ンおおおおおッ！ やめ……」

「ごわれるうううううっ！」

愛

「はあはあはあっ♡ なんでもするって、言ったでしょ

子宮までっ！ ぐじゃぐじゃにしますからあっ！

陽子

「ぐええええっ♡ もう、もう……ッ♡」

愛

「言え！ ギブアップって！ 言いなさい！」

陽子

「ああああっ！ あああっ！ ああああっーっ♡♡
じぬうううううううううう♡♡♡♡」

愛

「しんでも……つづけますからあああッ!!」

陽子

「があああっ♡ があああっ♡ んっ！ んおおおっ！
わかったあっ！ わかったあ！ ギブアップう♡

んほおおおッ!! ギブギブ!! んおおおおっ！

ギブアップするからああああッ♡」

愛

「あああ……っ！ はああっ！ はあああっ！

はああああっ！ やった……っ！ はあ！ かったあ！

「おおおおっ……おええ……♡ グ……ええ……」

愛

「はあ♡ はあ♡ かった……かったよ……見てた？

あの人のおまんこ……こうさんさせたから」

愛、男に近づいてセックスを始める

愛

「ね？ 私の愛の方が強かったでしょ……？ はあはあ♡

ごほうび、ちょうだい……♡

あの人におしっこかけられたもん……

慰なぐさめてえ♡♡ はああああああっ♡♡」

陽子

「うええ……かえせえ……かえせえ……っ！」

愛

「あああ♡ ああああ♡ きもちいい♡

ごめんね、きたなくして♡ でも、いまほしいの♡

んほおおおおおおおっ♡ っ♡ っ♡

「やめなさいよ……まだ……喧嘩はおわってないのに！」

「はああはあ♡ 全部私にちょうだい♡

おねがい……♡ あああん♡ あああん♡

「だめええええっ！」

「くうううっ！ あああああッ！」

陽子、愛を男から引きはがそうとする

「まだ決着、ついてないわよおお！」

「いやだあっ！ 私のものおおお！」

「わたしのよおおおおおっ！ はなれてええ！」

愛・陽子、ビンタ合戦（横線の箇所ではビンタされているイメージ）

ジでお願いします

「ぶふううっ！ やりましたねこの！」

「ぶふううっ！ わたしのおちんぼなのよ！」

愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 愛 陽子 陽子 愛

「ぶふうううっ！ ぶうっ！！ ぶうううっ！！」

んあああっ！！ んぶっ！！ ぶはああっ！！

んあああああっ！！」

「ぶふうううっ！ ぶふううううっ！！ ぶうううっ！！」

んんんっつ！！ んあああっ！！ ぶはああっ！！

んあああああっ！！」

愛・陽子、エスカレートして相手の喉を掴み合う

「っーっーッ！ か、かはっ！！」

「こ、こほっ！ けほっ！！ けほっ！」

(のどがあ……ッ！)

(のど……ッ！ く、くるし……ッ！)

「かはっーっーッ！ お、おええっ！ おえっ！」

「があああっ！ こひゅーっ！ こひゅーっ！」

「んおっ……♡♡♡」

「んおっ……♡♡♡」

(クリトリスが……♡♡)

(こすれ合ってる……♡♡)

「んおおおおおッ……♡」

陽子

「か……ッ!! うえええ……ッ♡」

愛・陽子、お互いが距離を取って倒れる

愛

「ぷはあああああつ! はあああつ! はあああつ!

はああはああはあ! はああはああはあ!」

陽子

「けほっ! けほっ!! はああ! はああ! はあ!

はあ! はあ! はあつ!」

愛

「のどは……おえっ……お互いやめませんか……」

陽子

「賛成……っおえっ……からだ身体で決着、つけましょう」

愛

「次、ギブアップしたら負けですよ……」

陽子

「その言葉、あなたにそのまま返すわ……」

愛

「わたしは絶対ギブアップしません」

陽子

「私だって絶対ギブアップしないから」

///トラック②終

／／トラック③

愛・陽子、ベッドに並んで座って手マン勝負の準備

「君も……私とのセックス、楽しみに待っててね……」

「わたしが勝つから、そこで見てて……♡」

この手マン勝負で……終わらせるから」

「この人のお潮しおがかかるけど、我慢我慢してね……」

私が……絶対に勝つからね」

「この子の負けまんこ……しっかり見届けて……♡」

ほら、股開またいてよ……」

「はうっ♡ そっちこそ、お股開またいてください！」

「うんっ♡ 強引あせね……♡ なに焦あせってるのかしら？」

「あなたこそ、おまんこに余裕無さそうですよ？」

「言うようになったじゃない？ 弱弱いくせに……」

「さっきギブアップしたのはそっちですよ？」

「ふん……いいから、手マン、やってみなさいよ？」

負けるのがこわいの？」

「先に責めたら、負けた言い訳にされそうですから。

同時に、始めましょう」

陽子

「いい度胸ね……♡」

愛

「せーのお……ッ！」

陽子

「せーのお……ッ！」

愛・陽子、手マン合戦開始

愛

「んんんっ♡ おっ！ おおっ♡ あああ……♡

ああああ♡ ああっ♡ いぐっ♡ あああ♡ ああ♡

んあああっ!!♡ こわしてやるうう！ さきに……！

壊してやるうううう!!♡ ああああっ♡ ああああ！

だめええええっ!! おっ！ おっ！ おっ！ おほっ！

挿れすぎいいいいっ!! ん、おとおとおおっ！♡

ふううッ！ んんんっ♡ おとおッ！

逝ってよおとおおッ！ はああああ♡」

陽子

「うんッ♡ んああ♡ んああ♡ はあ♡ おおっ！

あああっ♡ しおふきしなさい!! まけいぬう……♡

おとおおおおッ♡ おおおッ!! おおおッ!! ああ♡

まけるかあ……♡ はあはあ♡ テクニックで……

負けるわけ……おとお!! おほっ!! んお、おおッ!!

愛

陽子

愛

陽子

愛

陽子

愛

はやく逝ってええええッ！ おへえええッ！！

や、やめ……ッ！ おおおおおおおッ♡

「ああああ♡ ぎもぢいいいいいい！！♡

あへええ♡ あへええ♡」

「はああ♡ はああ♡ んんんんん♡

おかしくなるってえええええ♡」

「ああッ♡ だめッ！ だめ♡ んええ♡

おまんこお……先に……逝っちゃだめええええッ♡

「耐えてえええ♡ 負けちゃだめえええ！

おまんこ……おおお♡ 耐えてよ♡

あっあっあ♡ 逝ぐうううううッ♡」

「あついの……のぼってきたあ……ッ♡ ああっ♡

もうちよつと……我慢してええ♡ ああああッ！！

「おおお♡ おお♡ おお♡

おまんこ耐えてええええッ！ こんなおんなに、

まけるなああああッ！ ミンおおおおおッ！

「んえええ♡ 逝って♡ 逝ってえええ♡ はやく、

倒れてええッ！ お潮吹いてよお！ あへええ♡

陽子
愛
愛
陽子
愛
陽子
愛
陽子

んええええええっ♡ 挿れすぎだっ♡

「ああ♡ あああ♡ んええ♡ うええ♡ ぐぞおっ♡」

「んええ♡ んええ♡ んええ♡ ぽおっ♡」

「逝けえええッ!! いけええッ! うええ♡

逝け逝け逝けええ♡ ううっ♡ あああッ♡

おほおっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡!♡」

「はあ♡ あああ♡ 逝ってえッ♡ 逝ってよお♡

逝って逝って逝ってえええええ!!♡ んええ♡

おほおっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡!♡」

「負けちゃだめええええええエー!♡

あああああああああッ!♡ (絶頂)

「負けちゃだめええええええエー!♡

いやあああああああッ!♡ (絶頂)

愛、陽子が先に起き上がり手マンを再開される

「はあ…♡ はあ…♡ はあ…♡ おおっ♡

んおっ♡」

「はあ…♡ はあ…♡ はあ…♡ はあ…♡

はまだわたしは、やれるからあッ! はあっ! はあっ!

愛

「んええっ♡♡♡ おっ♡♡♡ おおっ♡♡♡ やめっ……っ♡♡♡」

陽子

「わたしの……手マンにい……勝てるわけないでしょ!？」

愛

「やめてええっ!♡♡♡ おっ♡♡♡ おっ♡♡♡ おっ♡♡♡」

陽子

「壊れりゅっ♡♡♡ んほおっ!」

愛

「じゃあ……ギブアップしなさいよおおっ!」

愛

「ああああっ♡♡♡ いやああああ♡♡♡ いやあッ!」

「ぜったいにいやあああああッ♡♡♡ んんんん!!」

愛、子宮に届くほど深い手マンで反撃

陽子

「っおほおおっ!!♡♡♡ おおっ♡♡♡ まってえ!!」

子宮……っ!♡♡♡ おっ♡♡♡ おっ♡♡♡ ああ♡♡♡

子宮はだめだっってええええええッ!!♡♡♡

逝ったばかりなのに!!♡♡♡ んぐううっ♡♡♡」

愛

「はあ♡♡♡ はあ♡♡♡ だめええ!♡♡♡ うええっ♡♡♡」

「そっちが、ギブアップしてええええっ♡♡♡」

陽子

「ほおおっ♡♡♡ おおおっ♡♡♡ ああっ!♡♡♡ ああっ!」

愛

「んええ♡♡♡ んええ♡♡♡ ああああッ♡♡♡」

陽子

「ああ♡♡♡ ああ♡♡♡ ああ♡♡♡ おおおっ♡♡♡ おお♡♡♡」

「おおおっ♡♡♡ おお♡♡♡ っ、っ、っおおっ♡♡♡ っわれるっ!」

ほんとに、こわれりゅっ！ んお、おおっ♡

「はあ♡ はあ♡ はあ♡ あああ♡ あああ♡ あああ♡

ゝああ♡ あああ♡ んゝああッ♡ んゝああッ♡

おまんこ……♡ おまんこお……♡

こわれちゃうううううーッ♡ あああっ♡

「だめええええええーッ！！(絶頂)」

「いやあああーッ！！(絶頂)」

愛・陽子、並んで仰向けに倒れる

「はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

「はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

(死ぬほどきもちいい……弱いところばれてきてる……)

(何回逝かされたか……わからない……)

「まだ……あきらめないんだ……？」

「自分が押してるつもりですか……？」

「もう動けないくせに！」

「そっちこそ限界なんですよ！ はうううっ！♡」

陽子

「はあはあ……♡ クリトリスと中の同時責め……♡
そろそろ、きついんじゃない？」

愛

「あああ……♡ ああああああ♡」

陽子

「ほら……♡ 責め返さなくていいの!? 手マン勝負なの
に」

愛

「あああ♡♡ あああ♡♡ あああ♡♡ あああ♡♡

んおおおおおおお♡!!♡」

陽子

「ぎぶあっぷしなさいよ！」

もう潮吹きしかできないんでしょ！ 言えっ！ 言えっ！

ぎぶあっぷって、言えええっ！ はあ、はあ、はあ♡」

愛

「いやよおおっ！ あああ♡♡ おおっ！ んおっ！

何回逝っても！ どんなにぶぎまでも!! はあはあはあ！

ぜったいに勝つんだからあっーッ！」

陽子、愛におっぱいを吸われる

陽子

「くちばっかり！ ひゃううううう♡ や、やめっ！

んんんんんんっ！ 吸うなああ♡ おっぱい♡

おっぱい、今だめえ♡ はうううう♡」

愛

「…………おおっ……………んえ……………つ……………ぐ……………」

陽子

「はあはあはあはあはあはあ！ わたしのかち！

わたしの勝ちよ！ わたしのおまんこの方が、

優すぐれてるんだから！」

愛

「…おおっ……………♡ はあはあ……………はあはあ……………

まだ……………です……………」

陽子

「はあはあ、なんで……………まだ、動けるのよ……………

はぐううう♡」

愛

「んじゅうううううううううううッ……………♡」

陽子

「おまんこ♡ 今吸っちゃだめええええ♡

あああっ！ ああああっ！ ああああっ！♡

こ、こんなの♡ …おおっ！ …おおおおっ！」

愛

「じゅるううううううううううッ……………♡」

陽子

「逝しくに……………決まってるでしょお……………♡♡

んくうう♡ …おほおお♡ …ほ…おおおお♡♡

っくうっ!! 逝しっくううううううううううッ!! (絶頂)

愛

「ぷはあっ！ はあっ！ はあっ！ ……あア……………

参まいったかあ……………参まいったかあ……………」

陽子

「はあはあはあはあ……はあはあはあはあ……
クンニするだけして……もう立てないんだ？」

愛

「はあはあ……ハアハア……そんな……ぐっ！ やめっ！」

陽子

「ほら？ もっと、おまんこ舐めてよ？ はあはあ……」

愛

「あぐっ！ んぶっ！ ぷはああっ！ はああっ！」

愛

（もう一回おまんこに敷かれたら……しんじやう……）

陽子

「ほら！ 手、どけなさいよ！」

愛

またおまんこで、敷き潰してあげる！ はあはあ

愛

「やだあああっ！ ぷはあああっ！ んんんんん！

愛

ふんんんんんっ……ッ！ はあはあはあはあ

陽子

「ハアハア……四よつん這ばいになって……逃げたつもり？♡

愛

「……!? っ……かあっ♡ ……おッ……おほ♡」

陽子

「はあはあ♡ バックからの子宮責め♡ んふ♡

愛

もう満足に声も出ないんだ？」

愛

「……おお♡」

陽子

「ふふ……さっき子宮をぐちゃぐちゃにしてくれたお礼♡

愛

「はあはあ……んえ♡ ……だめえ……

愛

おくに……あたってるう……♡」

陽子

「やられたことは、はあはあ……全部やり返すわ」

愛

「……………こおおっ!! おおおっ!! (放尿)」

陽子

「なに? こうさんのおしっこ?」

愛

「ブー……………んおっ♡ ブー!!」

陽子

「ねえ彼氏君? もうタオル投げた方がいいんじゃない?」

愛

「止めないでええっ! ぜったい……………かつ……………からあ!」

陽子

「お漏らししながら、よく言えるわね!」

愛

「……………んう……………! ……おおっ……………♡ お♡」

陽子

「降参するまで、逝かせ続けるから!」

愛、床を叩きながら、快楽に耐えるように

愛

「……………おお! おおおっ! おおおっ♡」

陽子

「動けないなら、降参しなさい!」

愛

「……………んんおおおおおおおおおおッ!」

陽子

「こいつ……………この体勢で、立ち上がって……………」

愛

「負ける……………もんかあああっ!!」

陽子

「きゃあああっ!! っ! いったあああっ!

愛

はあっ……………ッ! や、やめっッ……………いやあああっ♡

陽子

お股……………割けちゃう……………んううう♡」

愛、陽子の股間を無理やり開いて、手マンを開始

愛 「はあはあ……こっちの方が、もっと奥を……

責めれますよ……」

陽子 「……おとおおっ♡……おほっ!! んぐ……ッ♡

ゝああ♡ ぁああ♡ ぁああ♡ ぁあっ!!♡

くそおっ……ッ♡ ポルチオばかりいい♡

逝つくううううううーッ♡ (絶頂)

おしっこも……とめられない……ッ♡ (放尿)

愛 「そっちが……はあはあ……降参してえ!

こんなみつともない恰好で……

おしっこも、お潮しおも噴はいて……

恥ずかしくないんですか!?

陽子 「はあ♡ はあ♡ はあー♡ はあー♡

男を奪とられるくらいなら……はああううう♡

ゝああ……ああ……ッ♡ なんでも耐えるわよ!

愛 「私の男なんだからああああっ!」

陽子 「わたしだって……遊びじゃないのよおっ!」

愛 「うぎいいいいーッ！ 髪……っ！ やめてえ……

んんんんんん♡」

陽子 「じゅるうううううううううううううううう♡」

愛 「んむっ……♡」

愛 (ばきゅーむ……きす……っ……い、いきが……

くるしいのに……きもちいい……♡)

陽子 「じゅるるるるうッ♡ ぷはあっ!! はあっ！

はあっ、はあ、はあ……はあ……はあ……はあ……

愛 「ぷはあっ！ はああっ！ はあ！ はあ！ はあ！」

陽子 「んんっ……♡ あへえ……♡ (軽い絶頂)」

愛 「はあはあ……っ♡ ん、えええ♡ (軽い絶頂)」

陽子 「はあはあ……もう、まんぞくに立てないようね……

はあはあ……」

愛 「はあはあはあ……お互い様……ですよね」

陽子 「引き分けなんて、はあ、無いから」

愛 「はあ、望むところ、はあ、ですよ」

「じゃあ、どっちが消えるか、はあ……

おまんこの、直接対決で決めましょうか……はあはあ……」

愛

「ええ……今度こそ心を折ってみせます……」

陽子

股、開いてください……」

「はっきりさせてあげる……」

どちらが彼氏君にふさわしいか……貝合わせ勝負で……」

愛・陽子、貝合わせの体勢を取る

愛

「はううっ……ッ♡ あああっ♡」

愛

(おまんこ合わせただけで……快樂がのぼってくる♡)

陽子

「はあん♡ うう♡」

陽子

(柔らかいおまんこが……吸い付いてくる♡)

愛

「君も……私のおまんこ、応援してっ♡」

陽子

「わたしとやりたいんだよね♡ 待っててね♡」

愛

「今、潰すからあ……!」

陽子

「今、潰すからあ……!」

愛

「ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡」

愛

ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡

愛

いけえっ♡ いけえっ♡ いけえっ♡ いけえっ!!♡

愛

彼は、私のもの♡ 私のものだからあっ!♡

愛

んああああッ♡ オオっ♡ オオっ♡ オオっ♡ オオっ♡

陽子

私のほうが……はあああっ♡ 愛してるわああっ♡
ん、ああっ!! ん、ああっ!! ん、ああっ!! ん、ああっ!!
熱いの……のぼってくるううう♡」

「ええ♡ ええ♡ ええ♡ ええ♡ ええ♡

ええ♡ ええ♡ ええ♡ ええ♡ ええ♡

いげえっ♡ いげえっ♡ 逝け逝け逝けえええーっ♡

あんっ♡ あんっ♡ あんっ♡ ああああっ♡

わたしのものよおおおーっ♡

あんたが……消えるほうなのよおおっ♡

わたしの愛のほうが、強いんだからあっ♡

、おおおっ!! 、おおおっ!! 、おおおっ!! 、おおおっ!!

おまんこがあ! おまんこが、ぶっこわれりゅう!!♡」

「んえええええええっーっ!!♡♡(絶頂)

、おおおっ!♡ 、おおおっ!♡ 、おおおっ!♡

まだよおっ♡ 、おおおっ!♡ 、おおおっ!♡

はあはあ♡ はあはあ♡ 意識飛びそうなくせにい!

はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡

まけない……っ♡ まけないい……っ♡

陽子

まけないい……っ！♡ まけないい……っ！！♡
まけるもんかああー……！！♡♡

「うええええええっ……！！♡♡ (絶頂)

♡おおっ！♡ ♪おおっ！♡ ♪おおっ！♡

♡おおっ！♡ ♪おおっ！♡ ♪おおっ！♡

もっとおまんこ、すりあわせてきなさいよお！

はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡

まけない……っ♡ まけないい……っ♡

まけないい……っ！♡ まけないい……っ！！♡

まけるもんかああー……！！♡♡

「はああッ♡ あついの……またくりゅうう！！ 待って！

おまんこ、耐えてよおおっ♡ あっ♡ アッ♡ アッ♡

こんなひとにい♡ まけないでえええ♡

「もうだめえっ♡ からだの底から……ぶっこわれりゅ♡

♡おおっ♡ ♪おおっ♡ ♪おおっ♡ ♪おおっ♡

もうちよっただけ……おねがい……がまんしてえっ♡

「ぶっ♡ はへ♡ もう………んえ♡

むりいいいい！！♡♡ (絶頂)

陽子

「おほッ♡ はへ♡ げん……かい……
いぐうううううううううーッ!!♡♡ (絶頂)」

愛・陽子、快樂で意識を失いかけるが、貝合わせを続ける

愛

「んええ♡ あへ♡ んへええ♡ んへえ♡ あへ♡
んんん♡ えへええ♡ あえ♡」

陽子

「あええ♡ おほ♡ んへええ♡ ふええ♡ あへ♡
あええ……♡ えへええ♡ あえ♡ はあはあ♡

愛

「んあああああああああああッ♡ あっ♡ あっ♡
くううううううううう!!」

陽子

「んあああああああああッ♡ あああああッ♡
「ああっ♡ もうこわれりゅ♡ こわれりゅ!♡ むりい♡

愛

んえっ♡ あえ♡ いぐっ♡ んえっ♡ もう、
きもちいいのむりい♡ あへえええっ♡」

陽子

「あひいい♡ あひいい♡ えええっ♡ こわれりゅ♡
ずっと! いきっぱなし♡ おおおっ♡ しぬう♡

ああ♡ ああっ♡ うえええええっ♡

ぶっ♡ んおおお……っ♡♡」

陽子

(とぶ……いしきが……いしきが……っ……)

愛

「もう、^お墮ちてええっ♡ おおっ……♡」

陽子

「はううう……♡ えええっ♡ あへええ♡」

愛

「墮ちてよおおーっ♡♡♡」

陽子、狂ったようによがる

陽子

「……………ッ!! おおッ!!♡ (絶頂)

んえええッ♡ (絶頂) ぶへえええええッ♡♡ (絶頂)

愛

「あああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡」

陽子

「おっ♡ おお……♡」

陽子

(からだが……うごかない……)

愛

「はあはあ♡ はあはあ……はあはあ…… んんんんっ♡

おまんこも……おっぱいも……押さえ込みましたよ……♡」

陽子

「はううううっ♡ ああああ♡ ああああ♡」

あああ♡ ああああ♡」

陽子

(乳首もおまんこも……こすれあってる♡)

愛

「おまんこのほうは……んん♡

もう降参した……みたいですよ……ああ♡

あなたも……はやく……んんっ♡」

陽子

「んんんんんんんんんん♡ んんんんんんんんん♡」

愛、以降泣きながら話すイメージで

愛

「んんんんんんんんんんんっ!!♡ むだ……ですう♡

ぜったい、うえから、あああ♡ どきませんから……」

陽子、以降泣きながら話すイメージで

陽子

「あへ♡ あへ♡ ちからがあ……♡ ぶおおおお♡

おっ♡ おっ♡」

愛

「ぎぶあっぷしないなら……ああ♡ ああ♡

しぬまで、責め続けますよ……

おまんこ、壊してあげますう♡ あへえええ♡」

陽子

「はあああ♡ はああ♡ ああああ……♡」

陽子

(もうぜんしんが……性感帯せいかんたいになつて……

少し動いただけで……触ふれられただけで……

逝いっちゃう……)

愛

「ぎぶあっぷしてください!

愛液あいえき……とまってませんよ……もう貝かい合わせ……

続けられないんですよ!？」

陽子

「あああ♡ あああ♡ いっっちゃううううう♡ (絶頂)」

愛

「ほら、おまんこはもう、ギブアップって……
言ってますよ……!」

陽子

「いやっ♡ いやああ! 降参なんて、しないから!」

愛

「いやです! 降参してください! んんっ♡ んんっ♡」

陽子

「ああっ♡ ああっ♡ ひぐっ……えぐっ……んええ♡」

愛

「もう諦めてええええっ♡」

愛

(私だって……もう……)

陽子、体(くち)が勝手にギブアップを宣言しようとするのを、手で押さえるイメージ

陽子

「ふえええ♡ んえええ♡ ぉおおっ!!♡

……ギ……ギ……ツ……ンンン!

愛

「はあ♡ くちを、手で塞ふさいでも、

はあはあ♡ 無駄です……! あはああああ♡

私が何回逝っても……♡

それ以上に……逝かせるんだからあああっ♡」

陽子

「あへええええ!!♡ うえええええっ!!♡」

愛

「あへえ♡ あへえ♡ ぎぶしてえ♡ ぎぶしてえ!♡」

陽子

「あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡ おっ♡

ギ……………ぎいい……………♡」

愛

「ぎぶしてよおおおおっ!!」

陽子

「……………ギブうううッ!! ギブアップ♡

ギブギブ♡ 負けましたあ♡ あへええ♡

もう♡ あへええ♡ もう、逝けません♡ 、おおおっ♡」

愛

「私の勝ちで……………いいですね……………?」

陽子

「あああ♡ あああ♡ はい……………負けましたあ♡

あなたの勝ちですから♡ もうやめて♡

やめてください……………♡ おおお♡」

愛

「はあはあはあ……………はあはあはあ♡

やった……………ッ! はあはあはあ……………ッ!

やったああああッ! ひぐっ! うえっぐ!

陽子、激しく泣きながら

「ああ……………! ぐぞおおおおおッ……………!

ああんっ! うえっ! ひぐっ!! ぐひんっ!

ぐやじい……………ッ! ぐやじい……………ッ!」

愛、喜びながら甘える

愛

「ねえ……きみ……♡ 勝ったよ♡ 勝った♡

悪い女は……倒したからね……♡ セックスしよ♡

陽子

「まって……っ！ まってえ……ッ!! あああ……

、おおおッ♡ ……ッ! からだが……♡ おおっ♡

逝くの……止まらない……ッ♡

愛

「ごめんね……どろどろで……♡ がんばったから……

いっぱい褒めて♡ んんんっ♡

陽子

「ぐひんっ! うえっ! んえっぐ! やめてえええ……」

愛

「ああん♡ ああん♡ はあん♡ さいっこう♡♡」

陽子

「ひぐっ! うえっぐ……ひっぐ!」

愛

「おねがい……♡ えきべんがいの♡

えきべんで壊して♡ もう動けないの……♡

んんっ♡ ああああっ!♡ あああ……ありがとう♡

きもちいいよお……♡ 勝利のせつくす……

きもちよすぎぃ……♡♡♡

陽子

「ああああ……っ! やめてええ……」

愛

「もう……っ♡ おっ♡ 動けなくなっいいから……

、おおっ♡ あの人の見せつけて♡ あああ……♡

陽子
愛

私たちの……愛を……っ♡ ああっ♡ もう二度と……

ちかづ
近付けないくらいに……見せつけましょう♡

あああああああっ♡

「うわあああああん！ えぐっ！ うえっ！ ひぐ！」

「あああああああっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡

逝っくううううううーっ♡♡♡

／／トラック③ 終

///トラック④

愛 「じゃあ、この人……追い出してくるね♡

帰ったらまた、続きしよっ♡」

「あぁっ……あぁ………」

陽子 「この部屋ですね」

愛、陽子を自身の部屋に押し込む。倒れた陽子の顔に愛は股間を押し付ける

「あぁんっ！ あ……むぐううううーっ！」

「ゴミ捨て場に捨てなかつただけ、感謝してください」

「むぐううう……むぐうう……」

愛 「あなたが負けた私のおまんこの味……

よく覚えておいてくださいね」

「んんんん……ぶぐうううっ!!」

(しぬ……っ！ 死ぬ……死ぬ死ぬ……ッ)

「少しでも空気吸わせてあげます」

「ぷはぁあっ！ はぁあ！ はぁ！ はぁ！ はぁ！

おええええええええっ！」

愛

「これまでと何も変わりませんよ。

あなたはこの部屋から、

私たちのエッチを聞くだけ。いいですね!？」

「んぶうううううううううう!! ぶぶぶぶぶ!!」

「わかったら、おまんこ舐めてください!」

「ぶぐうううう!! ぶぐうううう!!」

「おまんこで死にたくないでしょ!」

「ぶぐうううう!! ぶぐうううう!!」

(ぐやしい……っ! ぐやじいっ! ぐやじいっ!)

愛

「あなたには……容赦ようしやなんてしませんから!」

陽子

「ぶううううう!! うえええ!!」

愛

「ねえっ! 聞こえてるんでしょっ!？」

陽子

「ぷはあああっ! ぷはあああっ! ああああっ!

おえええっ! はあはあはあ!!」

愛

「はあはあ……3回目の拷問ごうもん……やりましようか?

いくらでも付きあいますよ……?」

陽子、愛の股間を舐める

陽子

「ひぐっ！ ひぐっ！ んじゅうううっ！

ちゅぱっ！ じゅぱっ！ まげまじだ……

ああ……………」

愛

「はあ……………はあ……………はあ……………」

私のおまんこに命乞いのちいいした事実、

しつかり覚えておいてくださいね？」

陽子

「あああ……………あああ……………」

「はあはあ……………今日はこれで終わりにしてあげます。

もし彼に手を出したら、次こそ潰しますから……

今よりもっと屈辱を与えて……」

陽子

「あう……………あぐ……………うえ……………」

愛

「どうしても彼が欲しいなら、

私に勝ってからにしてください。

約束破ったら……」

//SE パシヤッ (スマホのシャッター音)

愛

「この写真、ばらまきますから」

